

「たんぽぽを見よ」

順調に行く者が 必ずしも幸せではないのだ

悲しむな 立ちあがるのだ

タンポポを 見よ

踏まれても平気で

花を咲かせているのではないか 〈詩人 坂村 真民 作〉



● 長引く自粛生活ですが、タンポポのように、しっかり根を張り、意気揚々と過ごしていきたいものです。

伝言板

◆「スクールサポートスタッフ」と「AET(外国人英語指導助手)」が、新たに配置されました。

スクールサポートスタッフ（コロナ対応のサポーター）として、XXXXXXXXXXさんに、月から金の5日間、午前中から昼過ぎまで勤務していただきます。児童では隅々まで手の届かないトイレを中心に消毒・清掃作業をしていただきます。児童からの「ありがとうございます」の言葉がけがうれしかったと満面の笑顔でおっしゃっていました。黙々と働いてくださっています。

また、AET（外国人英語指導助手）として、XXXXXXXXXX（XXXXXXXXXX）さんに、毎週1日のペースで勤務していただきます。3.4年の外国語活動と5.6年の外国語の時間に荒牧先生と担任に加えて入っていただき、学習活動をより充実させていただきます。母国がフランスの方で、休み時間には児童とよく遊んでくれています。人気・信頼も厚いと感じています。

◆「ともに学び、ともに育つ」支援教育のさらなる充実のために

～ 大阪府教育委員会 発行冊子より～（紹介）

大阪府には、障がいのある子どもをはじめ、外国にルーツのある子どもや、さまざまな立場にある子どもたちが暮らしています。すべての子どもたちの自尊感情や自己有用感を育み、未来への展望を持って生きていくためには、互いの違いを認め合い、地域社会の中で関わりながらともに生きていく態度を育てることが大切です。これまで大阪では、このような「多様性」と「地域性」を大切にした教育を進めてきました。

障がいのある子どもの教育においても、生活を通して仲間とつながり、支え合い、高め合うことをめざす『ともに学び、ともに育つ』教育を基本とし、将来、自らの選択に基づき地域社会とかかわりながら、ともに自立した生活を送ることができるよう、子どもたちの可能性を最大限に伸ばすことを大切に進めてきました。そして、現在、ほとんどの小中学校に支援学級が設置され、障がいのある子どもがともに学んでおり、高等学校においても障がいのある生徒がともに学んでいます。

このように大阪がこれまでに大切に培ってきた『ともに学び、ともに育つ』教育は、障がいのある子どもと周りの子どもたちが、集団の中で一人ひとりを尊重し、違いを認め合いながら、自尊感情を高め、互いを大切にする態度を育む取り組みであるとともに、地域社会の一員として人や社会とつながり、支え合いながら、生き生きと活躍できる共生社会の実現をめざすものであり、その形成の基礎となるものです。

本校でも、一人ひとりの個性を伸ばし、ちがいや多様性を認め合い、主体的に課題に向き合う態度やコミュニケーション力、そして、他者への思いやりの心を育むことをめざし取り組んでまいります。